地産地活 食空間の整備促進

5/29

東九州バスク化構想 延岡推進協が総会

今年度の事業計画案を承認した東九州バスク化構想延岡推進協議会の総会（23日、延岡市役所）

東九州バスク化構想延岡推進協議会（会長・読谷山洋司延岡市長、10団体）の総会が23日、延岡市役所で開かれた。市や延岡観光協会、県飲食業生活衛生同業組合延岡支部など、会を構成する機関・団体の代表者らが出席し、今年度の事業計画案などを承認した。

同構想は、フランスとスペインにまたがり、独特の美食文化で多くの観光客を魅了するバスク地方をモチーフとして、県境をまたぐ延岡市と大分県佐伯市が連携し、食で人が呼べる地域づくりを目指す取り組み。延岡推進協議会は、延岡市の構想推進に取り組む。

今年度は人材育成や基盤強化、機運醸成、人の流れ創出、プロモーション推進を5本柱に各種施策を加速し、地域経済の好循環につなげることを基本方針に、「地産地活」の推進や魅力的な「食空間」の整備推進、食のコンテスト・料理教室など6事業を盛り込んだ事業計画案を承認した。

このうち新規事業は、延岡市の食の魅力を広く発信し、観光誘客につなげる「都市部での食のPR」や、先進地に料理人などを派遣してスキルアップを目指す「料理人部会研修」、学生の地元就職や起業の機会などを創出する「市内飲食店へのインターンシップ」に取り組む。

意見交換では、東京五輪やラグビーW杯に向けた外国人観光客の増加を見据えた飲食店のキャッシュレス化対策をはじめ、日向市や佐伯市との食の広域連携、道の駅の有効利用の検討などを求める意見などがあった。

また、生産者からは、付加価値の高い野菜を作るため、料理人との一層の連携が必要といった声も上がっていた。

読谷山会長はあいさつで、「手を加える前のもの、手を加えてよりおいしくなったものをこれまで以上に市外、県外にアピールし、外貨を稼ぐのに合わせて、外から人に来てもらえるまちの活性化につなげていきたい」などと話していた。

2019.5.29

12月14日 のべおか「第九」

5/29

国文祭へ弾み

中高生を無料招待

多くの仲間と心つなぎ歌う

歌う会が会見

第34回演奏会に向け意気込みを語る（右から）のべおか「第九」を歌う会の水永さん、今村会長、渡邊さん＝きょう午前、延岡市役所

のべおか「第九」を歌う会（今村愛子会長）はきょう午前、延岡市役所で記者会見を行い、12月14日に延岡総合文化センター大ホールで開く第34回のべおか「第九」演奏会の概要を発表した。来年の演奏会は「第35回国民文化祭・みやざき2020」に参加し開く計画で、今年はその弾みの年と位置付け、合唱部や吹奏楽部に所属する県北の中学生と高校生を無料招待するなど新たな試みに挑む。団員減少や資金不足など課題はあるものの、今村会長（77）は「延岡の年末の風物詩として誇りを持ち、多くの仲間と心をつなぎ歌い合いたい」と意気込みを語った。

演奏曲目はベートーベン作曲交響曲第9番「合唱付き」など、管弦楽は九州交響楽団、合唱は同歌う会。指揮は初出演となる梅田俊明さん（仙台フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者）、ソリスト4人は昨年と同様に公募（オーディション形式）で選ぶ。ただし、うち1人は、合唱の原語ドイツ語にちなみ、国内で活動するドイツ人の声楽家を起用する。来年開かれる東京五輪でドイツ柔道選手団のホストタウンに登録されている同市を盛り上げる狙いもある。

また初の試みとして、観客に理解を深めてもらうため演奏会の開演前に、ドイツ語の歌詞を日本語で朗読する。

合唱団員は120～140人の参加を目標に、現在、県内の小学生以上を対象に募集中（小学生、中学生は保護者同伴）。年会費は一般5千円、大学生以下無料。7月末まで受け付ける。

記者会見には同歌う会の組織委員会委員長・水永正憲さん（70）、事務局長・渡邊行守さん（64）も同席。同歌う会の存続に向け引き続き、団員の拡充や資金確保に取り組むことを説明した。なお、来年の演奏会は、全国の第九愛好家に呼び掛けて参加を募る計画という。

第34回のべおか「第九」演奏会は12月14日午後6時から、延岡総合文化センター大ホールで開かれる。入場料は指定席4000円、一般自由席3000円、大学生以下自由席1500円。未就学児は入場できない。

問い合わせ、合唱団への参加申し込みは延岡総合文化センター（☎延岡22・1855）へ。

2019.5.29